

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語では、全国と比べると低い結果となり、特に「読むこと」には課題があります。文章や図表を目的に応じて結びつけながら、必要な情報を見つけ出す力に弱さが見られました。一方で、「話すこと・聞くこと」の正答率が高く、話し合いの場面で、相手の考えを聞き取りながら自分の意見を整理することができています。これは、日ごろの授業や学校生活の中で、相手の話を丁寧に聞き、自分の考えを言葉にする活動を積み重ねてきた成果だといえます。一方で、算数では、全国と比べるとやや低い結果となり、特に図形の領域において知識や理解の定着に課題が見られました。
- ・理科では、全国と比べるとやや低い結果となり、特に「エネルギー」の領域に課題が見られました。一方で、観察や実験を通じて自然の現象を「よく見て気づく力」は着実に育っています。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「PC・タブレットなどのICT機器を活用できている」「人が困っているときは、進んで助ける」「学校に行くのは楽しい」とした児童の割合は全国と比べて高い傾向にあります。
- ・課題となる項目
「読書が好きではない」「国語の授業で、文章と図表などを結び付けるのが苦手」「毎日、同じ時間に寝ていない」とした児童の割合が全国と比べて高い傾向にあります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語の授業だけでなく、算数や理科の学習でも資料を活用する機会を増やすことで、文章や図表から必要な情報を取り出す力を育てていきたいと考えています。
- ・図形に親しめるように実際に紙を折ったり、ICTを活用して図形を動かしたりする学習を取り入れていきます。こうした活動を通して、子どもたちが図形の性質を直感的に理解し、自分の言葉で説明できるようにしていきます。
- ・乾電池や電磁石を実際に扱う実験を丁寧に行い、結果を整理して考察する学習を充実させています。また、地域の自然や身近な素材を生かした観察活動を取り入れ、理科の学びを生活とつなげられるよう工夫していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・子どもが本や新聞、身近な資料を読んだときに、「どう思った？」「どんなことが分かった？」と優しく声をかけていただくことで、学びを深める力につながります。
- ・買い物や料理など身近な生活の中で「形や大きさ」を話題にさせていただくことで、子どもが算数を実感的に捉えるきっかけになります。
- ・日常生活の中で、電池を使うおもちゃや家電をきっかけに「どうやって動いているんだろう？」と子どもと話題にさせていただくことで、学びへの関心が深まります。